



災害に強いまちづくり

布田 恵美



問 先の台風19号時には、築年数の浅い図書館・市民交流プラザが浸水し、不自由な状況が発生したが、今後の浸水対策について伺う。

教育次長 今後の対策として、土の機能を有するコンパクトな浸水防止機材導入を検討しています。

問 (図書館周辺区域も含めて)今後の根本的な内水対策は大きな政治課題と捉える。市長の見解を伺う。

市長 内水処理の解決方法をしっかりと見いだして、水位を下げる方法の手段を整え、県や国に早急に対策をとっていただくように申し入れていきます。

福祉避難所の即応対応を

問 令和元年9月策定の要支援者避難支援プランには、福祉避難所として協定を結ぶ17カ所(現在16カ所)がある。有事の際には避難所に避難して、そこから二次的に福祉避難所を立ち上げて受け入れる、となっている。自閉症や発達障害など、生活環境が変わると不安になるため配慮が必要な事例も

あり、興奮して大きな声を出すなど、周囲に迷惑をかけたくないので避難をちゅうちよし、幼児を抱えて不安な一夜を自宅で過ごした現実も聞く。早い段階で福祉避難所を立ち上げ、直接受け入れを望む声が多数ある。最初に避難所ではなくて、直接受け入れをしていただける福祉避難所を早い段階で開設することは実現できないのか。今後の対応について伺う。

健康福祉部長 福祉避難所の開設に当たって、安全に避難できる施設がどこか、検討しているところです。岩沼市避難行動要支援者避難支援プランに基づいて運用を行うていきたいと考えています。できるだけ早期の福祉避難所、もしくは福祉避難所に近いようなスペース確保は、今後の課題と考えています。

◎その他の一般質問
・岩沼市の産業振興



防犯対策

佐藤 淳一



問 これまで市内に設置された防犯カメラの現状(数など)について伺う。

市民経済部長 市が管理する施設では、現在、小中学校や地下道など36の施設に131台の防犯カメラが設置されています。

問 設置されている防犯カメラの効果の検証は、具体的にどのような行っているのか伺う。

市民経済部長 改めて効果検証は行っていないませんが、犯罪の抑止、防止につながっていることは確かだと思えます。

問 岩沼市防犯カメラ設置補助事業の現状と課題について伺う。

市民経済部長 町内会に2台分、工業団体に8台分の補助を行う予定です。課題は特にありませんが、今後の状況を踏まえ、よりよい制度の運用に努めていきます。

問 今後の公共施設への防犯カメラの増設計画と、補助事業を活用した新規設置の見込みについて伺う。

市民経済部長 公共施設の方は、必要に応じて対応をしていきます。

カメラの補助事業は、今年度から5力年の計画で、およそ50台の設置補助を見込んでいます。

先進自治体を参考にして

問 小学校区をモデル地区とした子どもの見守り防犯カメラの設置を検討してはどうか伺う。

教育長 学校の敷地内は考えていますが、校外では、大人の目、社会の目の見守りが一番必要だと思えます。

問 高齢化の時代は昔と違い、いつも子どもたちを見守る目があるわけではない。機械の目などに頼らなければならない時代がもう来ているものと考ええる。今後の防犯対策の推進について伺う。

市民経済部長 岩沼市安全・安心まちづくり基本計画に基づいて推進していきます。防犯意識の高揚、防犯カメラの活用など、犯罪が起きにくい生活環境の推進、整備を進めていきたいと考えています。